

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 人間科学部

ヘルスフードサイエンス学科

名 前 時光一郎

作成日 2023 年 9 月 14 日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

○担当科目

1年生；「食の科学」必修、「有機化学」必修、「職業とキャリア形成」必修 等

2年生；「ストレスと食・健康」必修、「無機化学」選択、「分析化学」選択、「食品加工応用」選択 等

3年生；「食品生産流通学実習」選択 等

4年生；「卒業研究」選択 等

○教育活動

学科長、就職対策WG、広報委員会、アドミッション委員会、教務委員会

○責務

基礎的科目の授業においては、高校時代の授業内容を復習し、食・栄養分野で役立つところの知識を更に深められるようにしています。応用・実践的科目の授業では進路選択に役立つように、働いている方々の生の声を聴講し現場を実感してもらうことに努めています。それらにより、学生個々に自分なりの進路目標を持ってもらうことが最大の責務と考えています。

2. 理念（教育に対する考え方）

○大学・学部の理念

「こころ」、「からだ」、「環境・社会」の面から人間を深く理解し、自立と共生の心を培い、時代を切り拓く新しい展望と視座に立って、わが国の発展、国際社会に貢献しうる創造性豊かな活力あふれる人材の育成を目指します。

○自身の教育に関する理念

生活習慣病の深刻化、超高齢化および高度ストレス社会を迎えた現代において、「食」はこれまで以上に重要な役割を担っていると考えます。身体だけではなく、心の健康にも貢献できるのが「食」です。基礎的な科目も含め授業では、多様な人間を総合的に理解する「心身健康科学」を基盤とし、「食」を幅広く実践的に学んでももらいます。授業以外での交流も含め、楽しみながら「食」について学び、「食」により「ワクワク感」を提供できる独自の「食」を開発することのできる専門家を育成したいと考えています。

「理解力」も必要ですが、培ってほしいのは「疑問力」です。社会に出てから遭遇する課題においては正解があるかどうか分かりません。高校までは正解のある課題に対し如何に短時間で正解を導き出すかが求められていました。大学では正解があるかどうか分からない課題に対し自分なりに考え、疑問点を明確にしながら仮説を導き出してほしいと考えます。何より重要なのは疑問に対して考える力です。学生同士や教員との議論を通じて自分なりに考える力の育成を目指します。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

多様な学生に対し、できるかぎり学生個々に寄り添って自ら学ぶ気持ちを引き出す教育をしていきたいと考えています。補講等では個別学習を取り入れ、学生の興味、学力、知識量等に合わせた指導を行っています。また、学生から学ぶ分野と気持ちを持ち、できるだけ対等な関係で学生と接するように努めています。更には、グループ学習を取り入れ、学生が学生を指導する機会を設定すると共に、多様な考えを前提とし相手の気持ちを尊重するコミュニケーションの重要性を理解してほしいと考えています。

す。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

授業時や授業アンケート等で出てきた学生からの不満や要望に対しては最大限答えています。授業資料の UHAS へのアップや復習資料の紙での配布等です。授業時の声の大きさや授業資料の文字の大きさにも配慮しています。学生の学修成果の確認については定期試験を基に行いますが、理解が不十分だと思われる学生に対しては、補講を繰り返し行うようにしています。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

○短期目標（達成時期；今期中）

1 年生に対し個別面談を行い、将来の目標を聞き取りたいと思います。将来像が明確な学生に対しては、目標達成のための具体的なアドバイス（関連企業や飲食店等の紹介等）を行う予定です。将来像が明確になっていない学生に対しては、明確にするためのアドバイス（自己診断や幅広い就職情報の提供等）を考えています。

○中期目標（達成時期；来期中）

食品メーカーや飲食店等とのネットワークを構築し、見学、共同開発やインターンシップ等の機会を増やしたいと考えています。

* 表紙を含め、全体として、3 ～10 ページ程度とします。

【添付資料】

* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、
すぐに確認できるようにしておきます。）

- ・シラバス
- ・学生アンケート
- ・学生成績表